

「荒川を感じて、学ぶ姿」(荒川フィールド学習より)

校長 荒木克之

蒸し暑い日が続くようになりました。水泳の学習も始まり、夏本番も近づいています。夏休みも近くなっていて、最近子どもたちのわくわくする様子が、こちらにも伝わってくるようです。

さて、岩淵小学校のすぐ近くに流れている荒川。岩淵小学校は、1・2年生の生活科、3～6年生の総合的な学習の時間で「荒川フィールド学習」に取り組んでいます。年間を通して行っている取り組みですが、6月もいろいろな体験学習をすることができました。(日本生態系協会の方、アモアの指導員の方、水辺の会の方には、大変お世話になっております。いつもありがとうございます。)

12年生は、6月4日に「かにとり」の体験をしました。川縁で、小石の裏に隠れている可愛らしいかにたちを見つけて、夢中になって捕まえる子どもたち。最初はおっかなびっくりだった子も、だんだん慣れて、楽しんでいました。

34年生は、6月14日に社会科見学で、岩淵リバーステーションから荒川水上バスに乗りました。水上バスで、水の上から見る景色は、また普段と違う感覚でした。橋の下をくぐるときの大変な迫力に、子どもたちは大喜びでした。

5年生は、6月5日に荒川が氾濫したときに備える施設装備の見学を行いました。緊急時に出勤する排水車、照明車に実際に触れる体験。緊急対策本部にお邪魔して、緊急時の実際のお話を伺うこと。自分たちの暮らしを守っている人たちから学ぶことで、多くの気づきがあったようでした。

岩淵小学校にとって、荒川が近くにあるという立地は、意欲的に学ぶ姿を引き出すために、とても恵まれている環境です。現地へ行って、実際に荒川を感じて、考えて、振り返る。このような活動を進めることで、子どもたちの学ぶ力とともに、地域を大切に思い、感謝の気持ちを育てています。ぜひ、ご家庭でも機会を見て、荒川を始めとした地域の大切さについて、考えてみてください。

夏休みまで残り3週間となりました。夏休みの間は、ご家族と過ごす時間が多くなります。そして、人と出会い、いろいろな事を体験できるよい機会です。健康に気をつけて、記憶に残る素敵な夏休みを過ごせるようにと、願っております。

